

高等部教育目標				
イエス・キリストを通して、人と世界に仕える使命感と実力を養い、豊かな心と真摯な態度を備えた人格を培う				
探究型カリキュラム教育/学習目標				
SDGsの達成を目指し、Mastery for Serviceを体現する世界市民の一員として、国内外の社会に自ら関わり貢献できる力を育成する/身につける				
探究型カリキュラムにおける5つの学びの方針	Five Principles for Learning			
1. 自分事として <オーナーシップ/一人称>	2. 社会/実践を通して <PBL型/アクション>	3. 知識を大事に <自ら得る知識/高める関心>	4. コミュニケーションを通して <自分/他者のやりとり>	5. 生徒・教員が共に <共に探究する関係性>
上位学習目標				
【知識・技能】				
<ul style="list-style-type: none">「平和」の定義について、状況に合わせて可変的に語ることができる「平和」に関わる社会的課題について、自分の言葉で語ることができる「平和」に関わるフィールドスタディを通じて、課題に取り組む現場の人たちや一次資料から生の情報を収集することができる				
【思考力・判断力・表現力】				
<ul style="list-style-type: none">「平和」に関わる社会的課題について調べ、その解決方法を提案することができる「平和」に関わる様々な価値観や見方を比較検討することができる「平和」に関わる社会的課題について調べ、そこから得た知識や考察した自分の意見を他者に伝えることができる				
【学びに向かう力・人間性】				
<ul style="list-style-type: none">世の中の平和実現のために自分が必要な知識や力を身につける意欲を高めることができる自分が関わる社会がより平和なものになるように、自分に何ができるかを考察し、実際に行動を起こす一步を踏む姿勢を持つことができる（人間性）				
下位学習目標				
【知識・技能】				
① 「平和」に関する知識（認識内容）を獲得するだけの次元を超えて「平和」に対するものの見方（認識方法）を身につける (学習者だけでなく指導者の目標もある。) [知識（認識内容）偏重からの脱却・認識方法の獲得]				
【思考力・判断力・表現力】				
① 「平和」を抽象概念ではなく具体的に認識し、自らの言葉で語れるようになる。 [抽象論からの脱却]				
② 「平和」を「戦争」の反対語として二元論的に捉える認識方法を脱却する。 (松下伸幸「改憲的護憲論」の目次「『戦争』と『平和』は対義語なのか」などを資料として提示) [二元論的思考からの脱却]				
【学びに向かう力・人間性】				
① 常識に対して懐疑的にアプローチし、逆説的なものの見方ができるようになる。 (人類の誰もが平和を望んでいるわけではなく、戦争・紛争を望むもの…武器商人などにも目を向けることができるようになる。) [逆説的認識方法の獲得]				

授業日	5/30(火)	1 学期授業回数	5 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット 【知識・技能】① 【思考力・判断力・表現力】①② 【学びに向かう力・人間性】① ----- 本時の具体的な目標		
	<ul style="list-style-type: none"> ・「平和を構築した人々」というテーマで行う9月の発表に向けての中間報告をし、研究の方向性についてのアドバイスを教師、メンバーからもらう。 ・社会で知られていないことを、人前で語ることができるようになる。 ・他者の発表を聞き、自分との考え方の違いについて考える。 		
時間 授業内容	1 コマ目 5 名の発表。 2 コマ目 5 名の発表。		
評価方法	時間	6.5~7.5	A 5
	6~6.5	7.5~8	B 3
	6 未満	8 以上	C 1
	客観的内容		
		A	15
		B	12
		C	9
	考察		
		A	15
		B	12
		C	9
	質疑応答		
	6~	A	5
	4~5	B	3
	3 以下	C	1
宿題指示			